

『これからの5年を考える』

志和池地区社会福祉協議会 会長 黒木 政信

“何事にも前向きに考える” 子どもから高齢者に至るまで世代間の絆を大切に、お互いに思いやり、ちょっとした気遣い・気配りで、生活に喜び溢れるような世代間交流を通じて、毎日が明るく・楽しく・元気に生活ができる地域づくりを目指します。

志和池地区社協 これからも続けていきたい活動

一館一福祉推進事業

志和池地区社協が、各世帯から集めた協力金を助成金として19自治公民館に配布し、全館が福祉活動に取り組んでいます。例年は健康体操や福祉の話・防災訓練・花植え・パソコン教室・レクリエーション等、公民館単位でそれぞれの実情に応じた様々な活動を行っています。



在宅介護者のつどい

日頃在宅で介護をされている方が、介護するうえでの悩みを分かち合ったり、リフレッシュしたり、介護の仕方や制度について学ぶことを目的に毎年開催しています。様々な苦勞を語りながらも、皆さんが笑顔で過ごせるこの集いを、今後も継続していきたいと思えます。



小学生年賀状大作戦

コロナ禍で、特に高齢者の外出機会やコミュニケーションを図る場が少なくなる中、志和池地区の小学生が地域の高齢者へ応援メッセージを兼ねた年賀状の作成に取り組みました。その後、民生委員が高齢者宅にお届けし大変喜ばれました。これを機に、直接会えなくても心のつながりを感じられる取組を継続していきます。



地域・福祉施設意見交換会

地区社協役員と地域の福祉施設職員が一堂に会し、地域の実情や各取組について共有することを目的に毎年開催しています。施設の地域貢献活動を知り、連携を図りながら地域活動を進めていくために、大切な場となっています。



志和池地区スローガン

笑顔あふれ広がる、志和池の話!和!輪!
～志の和すること この池のごとくあれ～



【基礎情報】(R2.5.1)

人口規模 (住基人口)	全体	6,709人	世帯数	3,078世帯
	男性	3,171人	自治公民館加入世帯	1,963世帯
	女性	3,531人	自治公民館加入率	63.8%

【志和池地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

○公民館に関する問題

- ・公民館加入率の低下、また過去の地域役員が行事に非協力的
- ・こけない体操等、一度活動が休止になると再開が難しい
- ・個人情報の観点から、世帯名簿作成が困難なため災害時の対応が難しい
- ・自治公民館単位で自主防災組織があるが、実際の活動実績はあまりない

○高齢化による問題

- ・ゴミ出しや庭の手入れが難しい、移動手段がない、空き家の増加
- ・高齢者クラブへの参加人数が減少

○世代間交流の問題

- ・若い世代との交流の機会が少ない、若い世代の行事への理解がない
- ・行事の衰退に伴い、子ども達や保護者につながる機会が減少
- ・若い世代と時間帯を合わせるのが難しい

○災害時の対応

- ・第一避難所が遠い場合の対応や、災害時に要援護者に対して民生委員がどこまで関わるかが難しい

○コロナ禍による問題

- ・地区の行事や子ども関係の事業がすべて中止となり、より住民同士が交流する機会が減少
- ・自粛期間に心身機能が低下し、救急搬送が増えた

○地区社会福祉協議会の問題

- ・地区社協なんでも相談窓口の認知度が低く、住民からの相談がほとんどない
- ・自治公民館の地区社協に対する認識が低く、連携できる体制が出来ていない

○その他

- ・他人に何かをしてもらうことを躊躇する、お礼をしなければいけないと感じる住民性

志和池地区地域福祉活動計画

(計画実施期間・令和3年度～令和7年度)

計画スローガン (大項目)

笑顔あふれ広がる、志和池の話！和！輪！～志の和すること この池のごとくあれ～



中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1 小地域 (自治公民館単位) での福祉活動の充実と関係機関団体との連携協働できる地域づくりを目指します (地域づくり)	1-①これまで取り組んできた事業をさらに充実させていきます	継続)・一館一福祉推進事業の実施とPR活動 (R3～) 継続)・在宅介護者の集いの実施 (R3～) 継続)・地区文化祭への協力 (R3～)
	1-②自治公民館単位の支え合い活動を把握し、各地区へ広げます	新規)・我が公民館自慢アンケートを19自治公民館へ実施 (R3)
	1-③子どもへの支援や学校との連携に努めます	継続)・志和池小丸野小学校預かり保育 (R3～) 継続)・夏休み寺子屋サロンへの協力 (R3～) 継続)・子ども年賀状大作戦事業 (中学生も巻き込む) (R3～) 継続)・小中学校での福祉教育・地域学習等への協力 (R3～)
2 多世代が参加しやすい新しい活動の創出に取り組みます (人づくり・つながりづくり)	2-①若い世代を巻き込んだ活動を推進します	新規)・年層・壮年層に働きかける事業の展開 (防災キャンプ・親子で参加できるVO活動等) (R3検討、R4～)
	2-②お助けサービスの充実と利用促進を図ります	継続)・生活援助員VO視察研修及び情報交換会 (R3～) 継続)・お助けサービス利用促進のための周知啓発 (R3～)
3 様々な関係機関・団体が協議できる場づくりに取り組みます (協議の場づくり)	3-①地区内の関係機関・団体等の連携を図ります	継続)・地域と福祉施設意見交換会の実施 (R3～年2回) 継続)・地域福祉交流会の実施 (R3～)
4 地域住民の困りごとに幅広く対応できる組織体制づくりを目指します (しくみ・体制づくり)	4-①事務局体制を充実強化していきます	新規)・役員会のメンバーとして、新たに壮年層・青年層を加え若い世代を巻き込む (R3働きかけ、R4～)
	4-②19自治公民館との連携を強化します	継続)・地区社協を周知し、地域課題を一緒に解決できる体制づくり (各自治公民館で出張なんでも相談等) (R3周知 R4～)
	4-③地区社協周知のための広報PR活動を強化します	継続)・広報紙の発行と充実 (R3～年2回) 継続)・有線、無線放送を利用した周知啓発 継続)・地区社協カレンダー作成事業 (R3～) 新規)・地区社協ふくしなんでも相談窓口PRチラシ作成 (R3～)